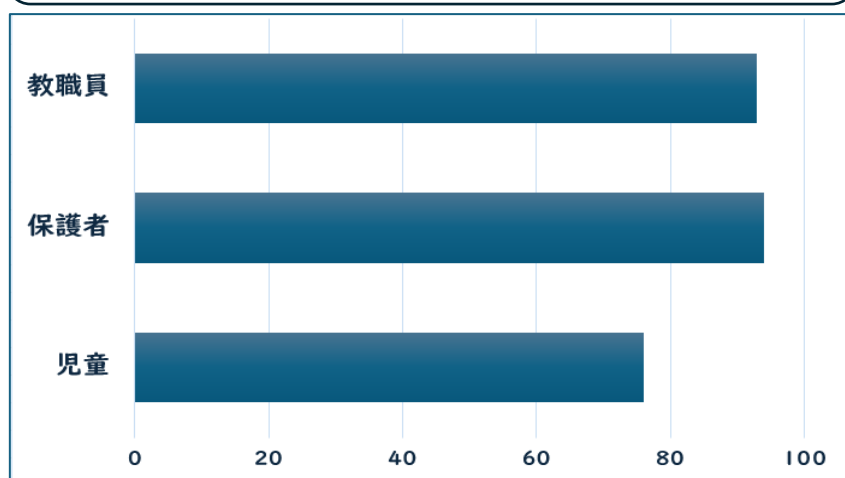


自己存在感の感受



質問番号

【児童】【保護者】【教職員】

共通して、1・2・3・4・5

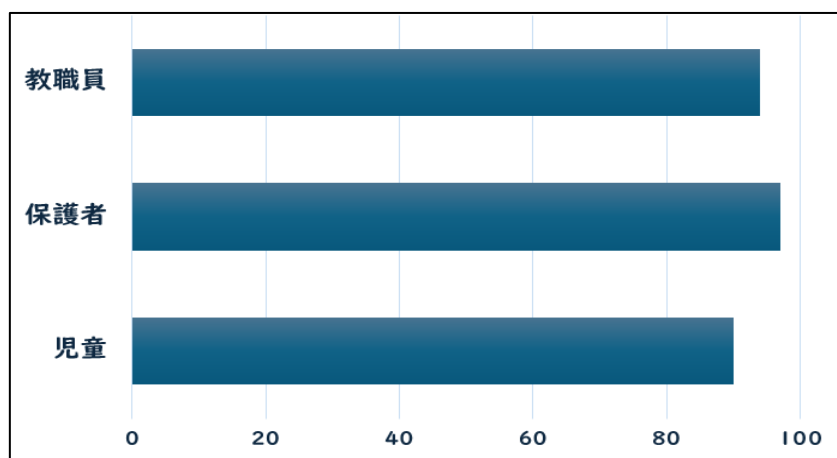
自己存在感の感受とは、「一人一人の児童生徒をかけがえのない存在と捉え、個性や独自性を大切にする」ことです。言いかえると、子どもは、あいさつや身の回りのこと、みんなのための仕事を進んでできるか、大人は、それらができるように支援しているかということです。また、自分の良さや強みがわかったり、自信をもてたりしているかということも関係します。自分の良さや強みは、自分だけでわかるものではなく、友達との学習活動の中で気づいていたり、発揮されていたりするものです。

児童への質問2「じぶんのよいところが いえる」では、肯定的な回答が58%にとどまった一方、保護者の方や教職員が、「子どものよさを認めたりほめたりしている」という回答はどちらも9割を超えました。「認めたりほめたりしていることが子どもに届いているか」という視点での子どもへの接し方が必要かもしれません。

児童への質問4「かかりやとうばんのしごとをじぶんからすることができている」では、この「自己存在感の感受」のセクションの中で児童の肯定的な割合が最も高かった結果が出ました。(90%)係や当番の仕事を自分からしようという子どもはとても多いことがわかります。また、各ご家庭でも「家での仕事」や「おてつだい」をしている子どもも多いと思います。また、「わすれものをしないように、がくしゅうのじゅんぴをじぶんでしている」は、約8割の肯定的な回答でした。(81%)忘れ物があると、学習活動への影響はとても大きいです。子どもたちが自分のできるようになってほしいのですが、2割の子どもたちに対しては、学校や家庭での声かけや支援が必要かもしれません。

児童への質問5「学校での出来事を家の人に話している」という回答では、「子どもに学校での出来事や学習の様子を聞いている」という保護者(96%)、「学級だよりや学年だより、ホームページなどで、子どもたちの学習の様子を伝えている」という教職員(86%)に続き、「学校での出来事を家の人に話している」という子どもの肯定的な回答は74%になりました。何かあったときだけではなく、普段から日常の何気ないことも含めて、子どもたちの話を聞くこと、大人側が子どものおもいを引き出すような言葉かけや、姿勢を見せていきたいところです。子どもが誰と仲が良いのが、誰とどんな学習をしたのかなど、日々の生活のささいなことを話題にすることで、子どもの成長や変化に気づくことができると思います。学校でも学級だよりや学年だより、ホームページなどで定期的に様子を伝えることができるようにしていきます。

共感的な人間関係の育成



質問番号

【児童】【保護者】【教職員】
共通して、7・8・9・10

「共感的な人間関係の育成」とは、自他の個性を尊重し、相手の立場に立って考え、行動できる協力的な人間関係を学級の内外で築くことです。

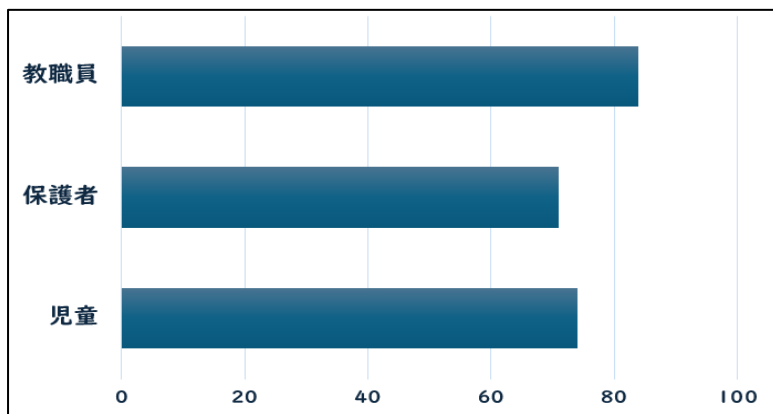
児童への質問7では、「ひとのはなしを さいごまで しっかりきいている」では、94%の子どもたちが肯定的な回答をしていました。人の話を最後まで聞くことの大切さは、どの子も理解しているようです。学校でも引き続き、「聞き方」や「聞く態度」の指導を続けていきたいと思います。

また、質問8「かんしゃのきもちとして、「ありがとう」や「ありがとうございます」をつたえている」では、感謝の気持ちも伝えることができているという自覚のある児童が9割を超えました。(92%) このことについては、保護者の方も教職員も自信をもって声かけをしている結果がうかがえます。今後は、子どもたちの中にも「わかるよ」「それはたいへんだったね」「いっしょにかんがえよう」など、相手の気持ちを想像したり、共感したりする「共感言葉」も増えていくとよいなと思います。

児童への質問9「こまったことがあったら いえのひとや せんせいにはなしたり、そうだんしたりしている」では、肯定的な回答は78%でした。毎年他の設問に比べ、低い部分ではありますが、今年度は昨年度の同時期と比べると5ポイントの上昇でした。学年にもよりますが、高学年になると、教職員や保護者の方への相談が減り、友達や先輩への相談が増えていきます。それも子どもたちの成長の一つと捉えることもできますが、普段から、「相談できる」「相談しやすい」と子どもたちが思えるようにしていきたいです。子どもから相談があった際は、校内でもできる限り共有し、複数体制で相談に乗っていききたいと考えています。

児童への質問10「じぶんやともだちをたいせつにしている」では、児童の肯定的な回答は9割を超えました。(97%) 学校での言葉や行動を実際に見たり聞いたりしていると、「果たして本当に大切にできているかな・・・」と考えられることもあります。子どもの意識としては「大切にしている」となっていることは安心材料の一つでもあります。また、自分や友達を大切にするための言葉や行動は、リアルな場面だけでなく、スマホやタブレットを介したデジタルの場面でも留意していきたい部分です。特に、ご家庭でお使いのデジタル端末を使ったやりとりについては、その中身が適切なコミュニケーションであるか、機会を見つけてお子様と話し合っていただけるとよいと思います。

自己決定の場の提供



質問番号

【児童】【保護者】【教職員】

共通して、11・12・13・14

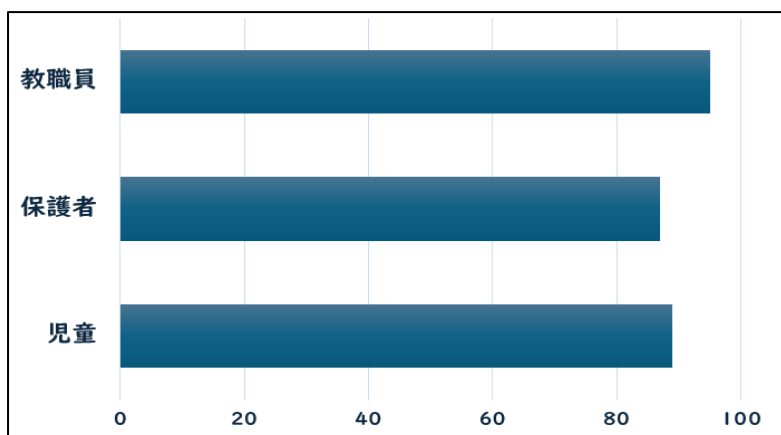
「自己決定の場の提供」とは、自ら考え、選択し、決定し、行動する（発表・制作など）経験が得られる機会を意図的に設定することです。例えば、学校での活動や家庭でのルールについて、子どもたちが意見を出し合い、その意見を尊重して決定する場を設けることがあります。これにより、子どもたちは自分の選択に責任をもち、自信をもって行動できるようになります。

また、保護者としては、子どもたちが自分で決めることをサポートし、必要に応じてアドバイスを与えることが大切です。これにより、子どもたちは自立心を育み、将来の様々な場面で自分の力で問題を解決できるようになります。

児童への質問 11「じゅぎょうちゅうは、じぶんから すすんで、がくしゅうしている」や、質問 12「かていがくしゅうに じぶんから すすんで、とりくんでいる」では、学校での学習や家庭学習についての主体的な態度について聞きました。どちらも肯定的な回答は、約8割という結果となりました。児童の中では、「自分からしているというよりは、先生や家の人に言われたからしている」という意識の児童もそれぞれ2割程度いるようです。自主的に取り組む楽しさや具体的な方法については、学校でも必要に応じて指導するようにしています。また、子どもたちが自分で目標を設定し、それに向かって努力する機会を確保したり、自分から学ぶことの楽しさを感じたりできるようにもしていきたいと考えています。ご家庭でも子どもたちのがんばりに応じて適切に声かけをすることで、学習に対するモチベーションを高めることができると思います。また、「すすんで取り組めるように」環境面での、学習に取り組みやすい状況を作ることも必要になると思います。

毎年低いのが、児童への質問 13「がっこうや いえで ほんを よくよんでいる」です。今回のアンケートでの肯定的な回答は約6割でした。（59％）この質問に関しては、保護者の方（41％）や教職員の肯定的な回答（71％）も低いものになりました。家庭では、放課後の過ごし方が多様化している中、本を読む時間のみを確保するのは難しいのかもしれませんが。学校では、朝学習や課題が終わった場合などに読書の時間を取っていますが、「読みたい本を自ら選び、進んで読む」という姿勢にまで至っていない児童も多くいると感じます。保護者ボランティア「やまなみらい」の方々による「読み聞かせ」や、図書の修繕ボランティアの方々による図書の整理や整備もお世話になっていますので、今後も本との素敵な出会いができるよう、取り組んでいきたいと思っています。

安全・安心な風土の醸成



質問番号

【児童】【保護者】【教職員】

共通して、15

「安全・安心な風土の醸成」とは、お互いの個性や多様性を認め合ったり、安心して授業や学校生活を送ることができる風土をつくったりすることです。特に、小学校では、学級や学年で活動することがメインになりますので、その中での「ルールややくそく」が子どもたちの中で約束されていて、どの子どもも安心して学習できることが大切です。

質問 15 では、「みんながきもちよくすごせるように がっこうや いえでのるうるを まもろうとしている」か問いました。89%の児童が肯定的な回答をしている一方で、そうではないと感じる児童も1割弱いました。学校は集団生活の場ですので、お互いが気持ちのよい「ルールややくそく」を考えることが大切かと思います。その際、教室には、様々な価値観をもった子どもや様々な背景をもった子どもがいることを考えることが必要です。したがって、お互いの考えを尊重しつつ、最適な「ルール」や「やくそく」を考えていけたらと思います。また、学年に応じて、ルールがなぜ必要なのかについての理解も深められるように指導していきたいと思います。

それ以外の項目について

質問 18 「さんかいみなみの ちいきのことが すきである」については、90%の児童が肯定的な回答をしていました。学校では、地域の方々に、朝の交通安全を見守っていただいたり、授業にゲストティーチャーとして参加していただいたりしています。また、教職員も授業の中で、地域の行事や公園、川や野菜について取り上げたり、地域のお祭りに参加したりすることで地域と触れ合う機会をもてるように計画しています。一方、保護者の方の中には、「家庭や地域等で、山階南の地域の良いところを話したり、ふれあったりする機会をもっている」と感じておられない方も多くいるようです。上記のような地域の良さや素敵なおところにふれる機会は、学校でも確保していますので、ぜひそこからでも話題を広げていただけたらと思います。また、防災、減災という意味でも地域の力（共助）は大切です。そのような物理的なつながりも、心理的なつながりもどちらも大切にできるように学校でも考えていきたいと思っています。